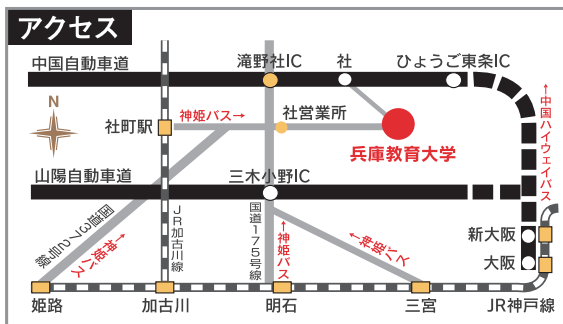


# 第一回兵教大 自分展

驚くべきことに、自分が思っているほど、他人は自分のことを知ってはいません。もっと驚くべきことに、自分が思っているほど、自分は自分自身のことをすらそんなに知らないのではないのでしょうか。ブログやSNSにより個人の表現手段が多様化・高度化するなかで、今回資料館では、あえて学生に展示というアナログな場所をご用意しました。それは、〈かたち〉にするという行為を通して、自分を他者に向けて展（ひら）くと同時に、他者の目により自分自身を再発見するきっかけになればと思ったからです。本展では、応募いただいた6つの個人・グループによるヴィヴィットで魅力溢れる研究・活動をご紹介します。ぜひお楽しみください。

## 自分(たち)を展示する jibun ten 2014.4.1(Tue) - 8.29(Fri)



### 開館時間

平日 8:30 ~ 22:00

土日祝 10:00 ~ 17:00

休館日 (附属図書館に準ずる)

8/13・14・15・16

※臨時に休館する場合があります。

附属図書館 HP をご確認ください。

<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp>

車 : 中国自動車道滝野社ICから約15分  
バス : JR三宮駅・明石駅・姫路駅から神姫バス「社営業所」  
乗り換え「兵庫教育大学前」下車  
教材文化資料館は附属図書館に併設しています。

# 自分(たち)を展示する



## Illustration

大学院修士課程  
文化表現系教育コース(音楽)2年  
いし ぼし かつ よし

### 描かねば。—— 石橋克祥

わたしは昨年、イラストコンテスト(第1回 Surface×LINE スタンプ一般公募コンテスト)に入賞することができました。それまでイラストは趣味で留まっていたのですが、このように誰かに認められることによって自分のイラストに自信が持てるようになりました。普段は音楽コースに所属していますがその分野に留まるだけでなく、さまざまなことに挑戦する大切さを知りました。

## NISM

大学院専門職学位課程  
学校経営コース2年  
あお やま たけ し

### 新聞を教育現場に —— 青山武司

新聞は「社会を映す鏡」と言われ、学校・家庭・地域の課題等を浮き彫りにしています。また、新聞をよく読む子どもほど学力テストの正答率が高くなるなど、「活きた教材」としての価値も認められます。一方、20代・30代の教員の75%が「新聞を読まない」と答えたとする、かなり心配な調査結果もあります。私たちは、記事の切り抜きに教職員や保護者、住民等へのメッセージを加えた作品を競い合う「スクラップバトル」等を通じ、学校経営に新聞等の報道を活用する「NISM」の力を鍛えています。

## Bone

### 生命 × 共生 × 持続可能

大学院専門職学位課程  
小学校教員養成特別コース2年  
じょう とも のり

### —— 城智律

自然から生命をいただいて動物の標本を作製します。ヒトとヒト以外の生き物がこの地球で共に生きることについて、感じ・考えられるように、センスオブワンダー(神秘さや不思議さに目を見はる感性)のきっかけをつくりたいです。

国立大学法人兵庫教育大学教材文化資料館平成26年度前期展

## 第一回兵教大

# 自分展

### 自分(たち)を展示する

## jibunten

2014.4.1(Tue)-8.29(Fri)

## Axcells

### “考動” —— 小西真人

学校教育学部  
学校教育系コース4年  
こ にし まさと  
推薦者

様々な人の考えを吸収し、次の“考動”へのキッカケ作りをミッションに学内で対話をするための企画やセミナーを主催しています。多様な人を集めて、教育について考え深め、共有する活動を行っています。

## KYOIKU Build

### 今できる学びを自分たちで

学校教育学部  
言語系コース(国語)4年  
そ し りょう た

### —— 曾雌竜太

毎週水曜日の2時間、毎回テーマを決め対話やワークショップなどの活動を行っています。また、学部生や院生だけでなく、外部から現職の先生を招くなど様々な立場から教育についての学びを深めています。

## Core Science Teacher

### 科学を楽しく、分かりやすく伝える。

大学院修士課程  
認識形成系教育コース(理科)H25年度修了生  
にし もと ふみや

### —— 西本郁也

コア・サイエンス・ティーチャー(CST)養成プログラムの一環として、小野市で開催されているサイエンス祭で、子どもたちのための科学イベントの運営・出展を行います。サイエンス祭の会場では「体験」「実験」「観察」「ものづくり」の4つのコーナーがあり、子ども達が実際に体験しながら、科学への興味・関心を育むイベントです。自然系・理科のメンバーが中心となって活動しています。